

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和5年3月20日

事業所名 マザーズ野洲

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		死角がないようにレイアウトをしている	トイレが1カ所しかない為、混んでしまう。個別に言葉かけを行い、タイミングをずらす様に働きかけていく。
	2 職員の配置数は適切である	○		利用人数に応じて非常勤職員を配置して安全を確保している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		身体障害者の受け入れをしていない。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		朝礼、終礼を行い情報の共有を行っている	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		行事ごとにアンケートを行い、結果を職員間で共有している	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	社内コンプライアンス室を作り、他事業所の第三者目線で毎月、記録のチェックをしている。	第三者委員と契約弁護士はいるので、随時相談しているが外部評価は受けていない為、行えるように働きかけていく。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		月に一回社内研修を実施し、外部の研修にも可能な限り参加している。		
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		自社専用のアプリを使用し、全利用児童のその日の行動や様子を毎日入力している。	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全社でチームを振り分け、療育活動のプログラム化を図っている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		原則曜日固定のため、どの曜日を選んでもまんべんなくプログラムに参加できるよう予定表を作成している。	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		集団療育における課題を設定して取り組んでいる。	
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		朝礼の際に、その日の利用児童で注意する内容やその日の活動について毎日共有している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終礼の際に、送迎時で保護者からの連絡事項等を共有している。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援目標に基づいて、些細な事でも記録、検証し改善に向けて職員間で話し合う場を設けている。	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		工作、ライフスキル、運動、地域交流を出来る限り偏りの無いよう、スケジュール管理している。		

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		相談支援事業所主導のサービス担当者会議自体がないが、開催された場合はその子どもに精通した職員が参加する準備はできている。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○	年に1回以上は学校側と情報共有の場を設けている。送迎時にもその都度情報共有を行っている。	
	22	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○	こちらから連絡を取り、園に見学に行き情報共有を行っている。	
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		現在対象者なし。移行する際の情報を提供する準備は常にしている。
	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ケース会議等で連携をとっているが、助言や研修は無い。研修を行うのなら参加はしたいと考えている。
	25	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		今後、障害のない子どもも参加できるイベントを地域交流も兼ねて実施していく。
	26	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○	連絡協議会には毎回参加し、情報収集や協力できることがあれば行っている。	
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時、連絡帳アプリを通して日々の様子や課題、支援方法の変更等を伝えている。	
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○	保護者会でペアレント・トレーニングを実施したり、自宅で出来る視覚支援や言葉かけをその都度伝えている。	
保護者への説明責任等	29	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に必ず説明をしている。質問等は常に受け付けている。	
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	職員の得て不得手を考えて、相談内容に相応しい職員が対応を行っている。	
	31	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会は開催したが1度のみなので、今後回数を増やし定期的の実施していく。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情に対するマニュアルは作成し、体制は整っている。保護者への周知は行っている。	
	33	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	週1回ブログを通して日々の活動を発信している。連絡体制などは、保護者に紙面でお渡しして、周知を行っている。	
	34	個人情報に十分注意している	○		
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に関わった事業運営を図っている	○		保護者、兄弟までで行事に参加してもらっている。コロナ等情勢が落ち着いたら地域の方も参加できる行事を開催をしていく予定。

非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	2か月に1回職員、利用者共に避難訓練を実施し、災害時の動きを確認している。	
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	外部研修、社内研修を含めて、参加・実施をしている。	
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		
	41	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	都度、保護者からアレルギーの状況を聞き取り、担当者会議で全職員に共有している。	現在アレルギー対応が必要な児童はいないが、4月以降通所予定のため、医師の指示通り対応していく。
	42	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	社内で起きたヒヤリハット・事故報告はその都度職員間で共有し、改善に向けた取り組みを全社的に行っている。	